

東建パブリニュース

平成30年3月23日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年3月19日 全国賃貸住宅新聞 P.19

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



制震フレーム、ロボットで製造

ナスラック **高耐震アパルトに標準装備**

東建コーポレーション（愛知県名古屋市中区、東建）のグループで建築資材や住設機器の製造・販売を手掛けるナスラック（同）は、埼玉県深谷工場にフルオートメーションの製造ラインを新設した。

東建が販売する高耐震鉄骨造アパルト『シェル』シリーズに使用する制震フレームを、ロボットが製造していく。3月1日から稼働。1日10枚程度、年間で480棟分のフレームを製造でき、これまでの5倍の生産能力をもつ。初年度は200～300棟分の製造を目指す。

制震フレームは東建が独自開発し、特許を取得している。地震エネルギーを吸収する特殊なダンパーを組み込んだもので、2016年10月に販売を開始した『シェル・ロココモダンX』には1棟あたり50枚前後の制震フレームを使用している。高耐力フレームと併せた構造で、最高基準の耐震性となる「耐震等級3」を実現する。今後、『シェル』シリーズに制震フレームを標準配置していくことから、オートメーション製造で生産性と品質の向上を図る。

以上